

## 4. 連携・連帯でつくる まちづくり



麻生まちづくり協議会と和光小学校の児童による花植え(平成26年5月14日、札幌市立和光小学校周辺)

## 4. 連携・連帯でつくるまちづくり

# 屯田地区Cネット会議における平成26年度の取り組み

屯田地区コミュニティネットワーク会議 議長 さかた 坂田 ふみまさ 文正

### 【はじめに】

屯田地区コミュニティネットワーク会議は、屯田連合町内会を始め屯田地区の55の町内会・自治会や43の団体の集合体となっています。安全・安心なまちづくりや地域が一丸となって住みよい屯田の地域づくりを行うことを目的としており、地域を挙げて取り組む必要がある際に活動する組織です。

この組織は平成11年に設置しており、この間、団体間の活動等の情報交換と相互理解の増進、地域課題等の整理や課題解決策の検討などに取り組んできたところです。

### 【活動内容】

ここで、平成26年度における屯田地区Cネット会議における活動をご紹介します。

まず、6月に開催した総会において、前年度活動報告を行うとともに、26年度については、「防犯サミット」及び「ふれあい交流もちつき大会」の開催、さらに、「地域課題の検討」の主に3事業を実施することとしました。

以下にこれら事業の一端を掲載します。

#### ① 防犯サミット

屯田地区では、防犯パトロール隊が活躍していますが、このとんぼ隊などとも連携し10月8日(水)



主催者挨拶



司会（松井とんぼ隊隊長）



北警察署の講義

に屯田地区センターにおいて開催しました。

北警察署から講師を招き、「屯田地域の犯罪情勢」についての講義を行いました。また、刑務所の慰問コンサートを継続して実施しているグループ「Paix<sup>2</sup>（ペペ）」が出演し、慰問活動、安全安心に関する講演を行いました。

#### ② ふれあい交流「餅つき大会」

この事業は、地区の子ども達や高齢者、地域の方々が一体となって、日本の伝統的な楽しみの一



会場全景



ペペの講演

つである「もちつき」を行うことにより、わが国の食文化への理解を深めるとともに、地域における相互扶助の輪を広げることを目的にふれあい交流推進事業として実施しています。

連合町内会、社会福祉協議会、民生児童委員協議会、日赤奉仕団、子ども会育成連合会等と連携し、11月23日（勤労感謝の日）に屯田地区センターで開催しました。

当日は、約800名の住民が参加し、子ども達に杵と臼の使い方を教えながら餅つきを体験してもらうとともに、総計70kgものつきたてのもちを味わっていただきました。



餅つき大会の様子

### ③ 地域課題の検討

6月の総会で検討対象を、「みずほ緑道の再整備」、「北方系自然博物館の設置」、「市有地の活用方法」の3分野としたことから、それぞれ検討委員会を立ち上げ協議することとしました。

「みずほ緑道の再整備」では、さらに地区別の2班編成で昼夜の現地調査を行い、現状での課題及び対応策についてとりまとめました。

また、「北方系自然博物館」では、まず、博物館活動センターで現在の博物館に関する構想・計画

を確認することから始め、過年度策定の北区まちづくりビジョンに沿った考えで自然博物館の設置についての提言をとりまとめました。

さらに、「屯田にある市有地」については、現在の地区の課題を念頭に、市有地を有効に活用した場合の利用方法について、屯田地区で温泉湧出の可能性あるかを北海道の専門機関に確認するなど意欲的に協議、検討しました。

何れの検討委員会においても、各々のテーマに沿った住民や団体の方が集まり、何度も協議を重ねたところであり、その中で互いの考え方を再認識するとともに、地域のためにという思いを一つにしたところです。

最終的にこれらの検討結果については、それぞれ要望書の形式でとりまとめておりますが、地域の多くの方が集まり、幾度もの協議を重ねたことが最大の成果であると確信しています。

### 【おわりに】

屯田地区では、12月に単位町内会が増えており、現在も人口が増加中です。また、主にみずほ緑道北側の地区では、現在も住宅が増え、子どもも増加しております。その一方で、早くから開発され、高齢化の著しい地区もあることは事実です。

これらが端的に示しているように、地域には、種々の課題があり、種々の団体が地域のために活動しています。Cネット会議では、今後も地域の課題に自ら考え、地域一丸となった対応を検討していきたいと考えています。

さらに、当地区は、3万7千人という人口と面的な広がりがあることから、地域全体の連携を深めるため、多くの地域住民や各団体をつなげていく場として、多くの皆様に来ていただき、世代間、地区間をつなげるようなイベントも継続して開催していきたいと強く願っています。

### ○お問い合わせ

屯田まちづくりセンター  
TEL.011-772-1260

## 4. 連携・連帯でつくるまちづくり

# スローライフ・イン・に～よんの新しい風“に～よん音楽祭”

スローライフ・イン・に～よん実行委員会 実行委員長 こいずみ 小泉 あきのぶ 詔信

北区北24条地域にすっかり定着した感のある“スローライフ・イン・に～よん”活動、平成16年から始まったこの地域密着のまちおこし活動は、本年度で11年を迎えました。「花と食で街づくり」をテーマとし地下鉄北24条駅を中心とした主要歩道をプランターに入れたお花で飾る「フラワーロードづくり」、小学生や小さい子どもさんにも参加していただいて歩道清掃をする「アダプトプログラム」、また地下鉄近辺にあふれる違法駐輪自転車への注意喚起をする「環境美化運動」、食料品販売店や飲食店の方々と連携して「食の安全啓発活動」を行っています。夏には、札幌サンプラザ正面や1階ふれあい広場が人、人、人で満杯となる北24条の夏祭り「ノースロードに～よんフェスタ」を行い、短い夏のひとときを楽しんでいただいています。そして冬には、“冬もスローライフ”と題してサンプラザ横のに～よん広場にピラミッド型のイルミネーションを飾り、その周辺と商店街・料飲店の歩道に300個のアイスキャンドルを点灯し、街行く人々に心の安らぎを持ってもらっております。

このような一連の活動を行い、様々な方々と話し合いをしているうちに、「この地元には音楽活動



北陽中学校合唱部

をされている方がたくさんいるし、全道的に名だたる活動をしている学校もありますよ」という声がたくさん聞こえて参りました。これらの声をきっかけに、“スローライフ・イン・に～よん”にも



アダプト活動の様子



フラワーロードづくり



環境美化活動

音楽会を取り入れることとなり、いままで商店街独自で行っていた音楽会を、地元音楽家を中心とした音楽祭『に～よん音楽祭』として私ども実行委員会が主催することとなり、平成26年1月に第1回「に～よん音楽祭」を札幌サンプラザコンサートホールで開催する運びとなりました。当日は地元白楊小学校のバンド同好会の皆さん、全日本合唱コンクールなどで入賞を果たしている北陽中学校合唱部、吹奏楽コンクール地区大会で金賞受賞の北陽中学校吹奏楽部の皆さん、そして北24条近辺にお住まいの音楽家が3組。

札幌は元より世界で活躍し、ご夫婦で演奏活動をされ津軽三味線、日本舞踊、民俗楽器を演奏される「草舞弦<sup>そうぶげん</sup>」さん、に～よん飲食店街のやき鳥屋の奥様がソプラノ歌手の6人組デュエットユニット「ココナッツファミリー」の皆さん、北24条で歌声スナックを経営する傍ら札幌を中心に全道で意欲的にLIVEをしているボーカルのヒロミさんとギターリストの高田富世さんに出演していただき、熱の入った演奏とすばらしい歌声は、400名以上のお客様に感動を与えていただきました。第一回目としては大成功の音楽祭に関係者はうれしさ半分、ホッとしたのが半分の気持ちでありました。

これに気を良くしての第2回を平成27年1月25日(日)同じく札幌サンプラザのコンサートホールにおいて開催。一昨年から出演をお願いしておりました、超多忙な「北海道警察音楽隊とカラーガード隊」の皆様の出演が可能になり実行委員は大喜び、おまけに昨年に引き続き出演していただく白楊小学校バンド同好会との合同演奏まで引き受けていただき、顧問の高橋先生にも「子どもたちにもたいへん良い勉強になる」と喜んでいただきました。今回の演奏会には、前回出演いただいた「ココナッツファミリー」さん、「ヒロミさん・高田富世さんグループ」と新たにボーカルとギターの若き歌手「みほりようすけ」さんに笑いと感動のステージをしていただきました。第2回目の目新しいこととして、北警察署署員による交通安全と犯罪防止の呼びかけ、社会福祉協議会職員によるオレオレ詐欺防止等を呼びかける寸劇「サッポロあんしん物語」なども行い、防犯活動にも貢献いたしました。

そして今回のクライマックスであります、北海道警察音楽隊の迫力ある演奏と、白楊小学校バンド同好会との合同演奏、そしてカラーガード隊のドリル演奏に大拍手が鳴り響き感動の舞台に幕が下りました。これらの開催に当たっては、札幌市北区役所様、北海道警察本部様、札幌北警察署様、札幌市北区社会福祉協議会様、札幌サンプラザ様、白楊小学校様他関係者皆様の絶大なご支援がございました。本当に感謝申し上げます。



札幌市北区社会福祉協議会職員による寸劇



北海道警察音楽隊と白楊小学校バンド同好会

本年も4月から「スローライフ・イン・に～よん」活動が始まります。地域の皆さまのお手伝いを頂きながら住み良い北区を創るべく努力をいたしたいと思っておりますので宜しくお願い申し上げます。

○お問い合わせ

スローライフ・イン・に～よん実行委員会  
 北区北23条西4丁目2-17 森谷ビル2F  
 TEL.011-707-3027 (北24条商店街振興組合内)

## 4. 連携・連帯でつくるまちづくり

# 『お宝再発見』事業で～地域の一体感を高め合おう～

～キタクなる新琴似『お宝再発見』事業の取り組み～

新琴似地区コミュニティネットワーク会議

事務局長（新琴似連合町内会総務部長）

よしだ

ただし

吉田

正

### 【はじめに】

平成24年度新琴似地区では、「エコでん・ウィーク」事業を行い節電に取り組み、地域の関心を高めることができた。これを契機に、まちの活性化に向けた取り組みを一層進化拡充させていきたいという願いにたって、平成25～26年度、地域の「お宝さがし」で自分たちが居住している地域の良さを再認識してもらうということで、新たなテーマのもとに取り組みを始めた。

### 【事業内容とスケジュール】

#### (1) 事業テーマ

● 今回のテーマは、子どもから高齢者まで誰もがわかりやすく、取り組みやすい「地域のお宝発見」とした。

#### (2) ねらい

● 地域の資産である様々なお宝を発見してもらい、応募結果を集約し、次世代に残す宝物を報告会・製本化を通して発信し、地域への愛着・連帯感を醸成し、「地域の一体感」を高める。

● お宝の場所に行ってみたいという探究心を掘り起こすことでまちの活性化を高め、明るい地域づくりを目指す。

#### (3) お宝応募発見のアイデア募集

● 事業の内容を具体化するため、25年度は21団体による全体会議を3回、実行委員会を4回、地域の若手グループとのワークショップを2回開催し、応募用紙の内容と集約方法・活用の仕方等を話し合った。

① 応募用紙のチェックポイントは4つ、(歴史、環境、美味しいお店、優れた技術を持つお店・人)でどれか1つに該当すると思われるところを1人1か所選んで応募してもらい、お宝に選んだエピソードを書いてもらい、応募者の中から抽選で記念品を贈呈する。

② 応募用紙の他に写真をつけて応募した人には、フォトコンテストを行い、入賞者には記念品を贈呈する。

③ 集約したお宝については、「ミシュランガイド」のようにまとめ、新琴似の魅力を広める冊子とする。

#### (4) 応募用紙の配布と回収

① 応募用紙は両面とし、事業の目的と回収場所を明記し、お宝のチェックポイントや選んだ理由・エピソード、氏名・住所のほか、事業の感想・気づいたこと等を書き込む欄を設けた。

② 配布は、連合町内会の地域15,000世帯に町内会の全面的な協力のもと全戸配布で行われた。また、連町の機関誌である「新琴似新聞」へ記事の掲載を依頼し、地域住民への周知を図った。広く応募を呼びかけるため、管内小中学校や児童会館、保育園等関係機関にも配布を行った。

③ 応募期間は、平成25年10月15日(火)～11月30日(土)。期間を過ぎても応募の問い合わせがあり、最終的に平成26年1月末を受付期間とした。



#### ④ 応募用紙の回収

町内会毎に写真を入れる「フォト袋」と応募用紙の「回収袋」の回覧を依頼し、回収ボックスを地域の南・北・西会館、四番通事務所、長生会館、新琴似・新川地区センター、プラザ新琴似の7か所に設置し、回収を行った。応募総数は写真が21件、応募用紙が235件で、新琴似緑・新琴似北小学校から2校併せて140件の児童が応募してくれた。

#### ⑤ 集約結果

写真を添付して応募した21名はフォトコンテストを開催し、10名の入賞(フォト賞)者を決定。その他の応募者から特別賞1名、感謝賞2校(新琴似緑・北小学校)、抽選で応募賞65名を表彰することとし、景品について、フォト賞は商品券、特別賞はグルメカード、感謝賞・応募賞は図書カードとした。

### 【報告会】

平成26年6月21日(土)10:30からプラザ新琴似大ホールで行われ、地域住民約60名が集まった。



集約結果の説明では

- 4つのポイント別では環境が89票と多く、その中でも①屯田防風林が4割を占め、②安春川、③JR高架遊歩道、④オオウバ百合群生地が自然を楽しめるスポットとして、挙げられていた。
- 次に多かったのが飲食店で、人気が高かったのが、①神野喫茶店、②うちパン、③タケダ製菓(せんべい)、④ミート館かやね等、味のみでなく、接客や安心・安全性が評価されていた。
- 歴史では、①新琴似神社、②新琴似屯田兵中隊本部、③新琴似歌舞伎、④新琴似音頭、⑤新琴似大根等、いずれも新琴似の歩みを踏まえた「誇れる宝」としてエピソードが記載されていた。
- 事業への意見・感想としては、「新琴似が開拓された時代背景を学び、行動することは新琴似の発展につながる」「自分の暮らす新琴似を見つめ直すよいきっかけづくりで愛着を感じた」等、地域のまちづくりの活性化に参考となる意見が記載されていた。

集約結果の報告の後に応募者への表彰があり、感謝賞を校長先生とともに受け取った新琴似緑小・新琴似北小の児童からお礼の言葉があった。



出席者からは次のようなコメントをいただいた。

#### 【北区市民部 石山市民部長】

今回技術が誇れる所として、地域住民でなければ知らない場所がクローズアップされているのも地域の人が誇りに思う財産だと思います。今後、集約結果が製本化されてまちづくりの活性化に活かされることを区としても期待したいと思います。

#### 【新琴似緑小学校長 川北俊哉先生】

新琴似「お宝再発見事業」に参加した子どもたちからは、今まで知らなかった新琴似のお店を調べて楽しかったという感想が聞かれました。今後もぜひ参加させてもらい、故郷を愛する心を育ててほしいと思います。

#### 【新琴似北小学校6学年担任 小西正一郎先生】

この事業は、地域の宝「防風林」のことを真剣に考えるきっかけになり、巣箱かけやゴミ調査などの活動をする「ふるさとタイム」の学習で、環境を守り・育てるという「地域愛」の意識を、先輩や後輩に伝えていきます。

#### 【おわりに】

平成25年度は「お宝」の募集と集約、平成26年度は集約結果の報告と製本化に向けて取り組んできた。

これらを通して、新琴似の魅力、伝統、考え方を知り、地域への愛着を一層深めてほしいと願っている。同時に、町内会、文化振興会、老人クラブなどの各種関係機関の担い手、商店街活性化にもつなげ、「明るく、住みよいまちづくり」を更に進めていく指針としたい。

○お問い合わせ

新琴似まちづくりセンター

TEL.011-761-4205

# 北区健康づくり協議会発足10周年

北区健康をまもるつどい 会長 さいとう 齋藤 よしこ 芳子

北区健康づくり協議会は発足10周年を記念して平成26年12月13日サンプラザにおいて「コンサドーレから学ぶ健康づくり」をテーマに、北海道フットボールクラブ社長野々村芳和氏の講演会と地域健康づくりの発表会を開催し、多くの区民が参加しました。世代を超えた協力と地域の連携による健康づくりが大切である事を学びました。



10周年記念講演会の様子

北区健康づくり協議会は、北区民一人ひとりの健康の実現を目指して、連合町内会、北区食生活改善推進員協議会、北区健康をまもるつどい、自

主的な健康づくりグループ、老人クラブ、医師会北区支部、歯科医師会北支部、薬剤師会北支部等関係機関と行政が協働で事業を推進する事を目的として平成16年に設立されました。活動の指針を運動、禁煙、食育としてテーマを設け、参加団体がそれぞれ担当に分かれ具体的活動計画を議論し実践してきました。

協議会設立当初は手さぐりの状態で、成果を得る事が難しい状況だったと思います。しかし、行政がリーダーシップを執り、協議会が事業計画・



北区ウォーキングの様子



札幌市健康づくり基本計画  
「健康さっぽろ21」(第二次)の実現

### 北区健康づくり協議会

ウォーキングプロジェクト

食育プロジェクト

タバコプロジェクト

連合町内会

鉄西連合町内会 幌北連合町内会 北連合町内会  
新川さくら並木連合町内会 新琴似連合町内会  
新琴似西連合町内会 麻生連合町内会  
屯田連合町内会 (屯田地区健康づくり推進実践会)  
太平百合が原連合町内会  
拓北・あいの里連合町内会  
篠路連合町内会 (しのろ健康づくりの会)

健康づくりグループ

関係機関

札幌市医師会北区支部 札幌歯科医師会北支部  
札幌薬剤師会北支部 北区食生活改善推進員協議会  
北区健康をまもるつどい 北区老人クラブ連合会

行政



事業報告の場となっている事を見直し、具体的目標を掲げる事でより内容のある効果的で活動しやすい体制に変化していきました。テーマごとの活動内容は下記のとおりです。

**運動** 「一日一回青空を見上げもう 1,000 歩あるこう」をテーマとし、特別な運動ではなく健康を意識した行動を心がけることをすすめました。また、北区ウォーキングマップを作成したことで、北区の名所を四季を感じて歩くなど各地域でウォーキング大会が開催されるようになりました。

### 北区のここがすごい!

**禁煙** 平成 20 年に「禁煙プロジェクト」を立ち上げ、禁煙ポスター公募、メモ帳、ポケットティッシュによる啓発、講演会開催など集中的に啓発を実施しましたが、区民の関心が得られず残念な結果でした。しかし次年度も継続して実施し、日常的にも啓発したことで認知度も高まり、関係機関の協力を得てスモーカーライザーや、スパイロメータによる肺年齢測定には、希望者の行列が出来るようになりました。「タバコを毎日吸う人が 32% → 15.2% になり、北区のすごい成果となりました。



タバコプロジェクト



北区食育展での肺年齢診断



北区食育展の様子

**食育** 平成 21 年に「食育プロジェクト」を立ち上げ、協議会主催食育展では「北区の野菜」を利用したバランスの良い食事の普及を行いました。さらに、プロジェクトで作成した「食育ランチョンマット」は、絵で学ぶ食育啓発に広く活用されております。

健康づくり協議会は、北区民の健康づくりをテーマに具体的目標を設定し、行政の支援と協力により発展している事を実感しております。「健康さっぽろ 21 (第二次)」では健康寿命の延伸を第 1 目標にしております。北区でも高齢社会に対応し、区民が健やかに生活できる地域づくりの実現を目指し、健康づくり協議会が連携し協力して 10 年の節目を機会にさらに飛躍していきたいと願っております。



北区ウォーキングマップと食育ランチョンマットは北保健センターで配布中です!!

○お問い合わせ

北保健センター

TEL.011-757-1181

# 地域に根差して～北区食生活改善推進員協議会

北区食生活改善推進員協議会 会長 いしい やすこ 石井 泰子

### 【会のあゆみ】

昭和49年北区誕生に合わせて、北区食生活改善協議会が会員十数人で発足し、平成26年で40周年を迎えました。その後、昭和51年度から札幌市が、各区で食生活改善推進員養成講座を開講し、現在に至るまで、会員養成と育成にご尽力いただいています。



食生活改善推進員養成講座 開校式



食生活改善推進員養成講座 平成26年度修了

この養成講座により会員数は増え、北区では現在推進員274名と、市内で最も大きな協議会に成長しました。

また、当初女性のみだった推進員に男性が加わるなど、時代の変化の中で、「食改さん」という愛称で少しずつ会の活動の幅を広げてきました。「私たちの健康は私たちの手で」の全国推進員のスローガンのもと、自分、家族、お隣さん、お向かいさんなど、地域の健康づくりを一步一步すすめるという活動理念は発足当時から変わらず引き継が

れています。

時代とともに人の価値観やニーズは変わりますが、「食は命なり」の言葉で示されるように食生活は健康に生きるうえで一番大切なことと思います。しかし、忙しい現代においては、朝食を食べないで通勤・通学する、あるいは毎日の食事に主食・主菜・副菜がそろわない、子どもが一人で食事をする、といったように、一番大切な「食」を忘れがちになっているように感じています。そのような現状の中で、自分で学んだことを実践し、まずは自分が生き生きと輝き、健康の輪を楽しく地域に広めていくことが私達ボランティアに課せられた使命だと思っています。

ボランティア活動は楽しくなければ続きません。私たちは仲間を大切にし、お互いを支えあい、共



定期総会

に学びあいながら、元気で長生きを目指してさまざまな事業を地域で展開しております。

### 【地域での独自事業】

本協議会は、区民に健康的な食生活を提案する「食改善展」、未来を担う子どもたちや若い親へ食の楽しさとおいしさを伝える「おやこ料理教室」、区内の各地域でおいしく健康的な料理を紹介する「地域伝達料理講習会」、推進員の研修である「社会見学」や「運動研修」など独自で実施している事業が多数あります。

### 【委託事業・協働事業】

独自事業に加え、高齢者を対象とし、介護予防センターと協力して実施する「すこやか食育推進



おやこ料理教室で作った料理  
(下に敷いているのは食育ランチョンマット)



地域での活動(すこやか食育支援事業)



食改善展



社会見学



運動研修



設立40周年記念講演

事業」や、おやこ料理等の「食育推進事業」など、札幌市から委託されている事業にも取り組んでいます。また、北保健センターとの協働開催や事業への参加・協力など、子どもから高齢者まで幅広い活動を心がけて活動しております。

### 【協議会の今後について】

平成26年度、地域の皆さまに支えられ、設立40周年を迎えました。札幌市の健康づくり基本計画の目標にも掲げられています「健康寿命の延伸」、「健康格差の縮小」「すこやかに産み育てる」を食生活改善推進員の視点で取り組み、50年、60年、100年と地域に根差した団体として活動が続けられ

るよう、今後も楽しみながらがんばっていききたいと思います。

ご自身やご家族の健康づくりのためにぜひ推進員養成講座と一緒に学んでみませんか。若い世代や男性など、老若男女問わず、私たちの活動にご理解いただき、私たちと一緒に活動して下さる方が一人でも増えることを願っています。

### ○お問い合わせ

北保健センター

TEL.011-757-1181



設立40周年式典

# あさぶ商店街の取り組み

麻生商店街振興組合 事務局長 <sup>なら</sup> 奈良 <sup>まさひこ</sup> 正彦

麻生商店街振興組合は、平成 25 年に創立 40 周年を迎えました。これを機に、40 周年記念誌の発行など、いくつかの記念事業を実施しました。

その中からいくつかをご紹介しますと思います。

まず、麻生商店街の新しいマスコットキャラクター「あさぶー」です。



平成 25 年 12 月に商店街の新しいキャラクターのデザインを一般の方から募集し、審査も一般の方からの投票と実行委員会による審査によって決めたものです。採用となった「あさぶー」は、「麻生」が正しく呼ばれていないことに少々怒っていて、「『あざぶ』じゃないよ、『あさぶ』だよ!」というコメントを发しています。

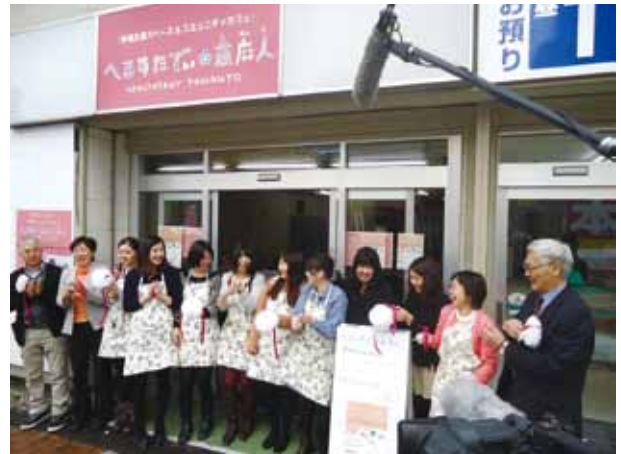
札幌にお住まいの方でも、「あざぶ」と呼ぶ方が相当数いらっしゃるかと思います。

まずはここ「麻生」を「あさぶ」と正しくよんでいた  
だくことが大事ではないのか、と考えた次第です。

平成 26 年 7 月に、麻生まちづくり協議会主催の「あさぶ三世代げんき広場」が麻生球場にて開催されましたが、「あさぶー」はここで着ぐるみとなってデビューしました。その後もあさぶ夏まつりやおすそ分けマーケットなどの地域の催しや、JR 札幌駅地下街アピアでの交通安全推進協議会主催の「冬の交通事故“シャットアウト”キャンペーン」などにも出演しました。

今後、商店街の各種イベントに登場するとともに、新しい商店街の顔として地域住民の皆様にもっと親しまれていくよう、がんばっていかねばならないと思います。

つぎは、「藤<sup>とまん</sup>麻人」と「りあん」です。



平成 24 年 11 月に、札幌市の「商店街再生事業 学生アイデアコンテスト」が開催されました。11 チームがエントリーする中で、藤女子大学食物栄養学科の学生のアイデアが準グランプリを獲得しました。この学生たちのアイデアを商店街の新しい活性化対策のひとつとして、学生と協力しながら事業化に取り組みました。平成 25 年 3 月にプレオープン、平成 25 年 8 月に「へるすたでい藤麻人」として正式にオープン、平成 26 年 4 月には店舗名を「りあん」（フランス語で【つながり】を意味します）として営業を継続しています。

一人親家庭の子供たちへの学習支援と大学生が考えた栄養バランスのよい食事の提供、さらに地域の皆さんに商店街の様々な情報を発信していくスペースとなれば、と考えての取り組みです。（麻生キッチンりあんについては、33 ページの記事でも紹介しています）

つぎに、いわゆる「はしご酒」イベントの取り組みです。麻生商店街は居酒屋や焼き肉店、バー、スナックなど



の飲食店が約 100 件ほどあります。

これだけ多くのお店があり、それぞれ

特徴のあるサービスを提供していますので、なかなかその全部を知ることは難しいでしょう。商店街にある様々な店舗の魅力を、できるだけ多くの方に知ってもらうことは、商店街が取り組むべき大事な事業です。

これまで麻生商店街ではこのような飲み歩きイベントを実施したことはありませんでしたが、平成25年に「あさぶらっと」と題して、初めてこのような飲み歩きイベントを実施しました。この「あさぶらっと」は約30店舗ほどの居酒屋や焼き肉店、バー、スナックなどのお店の参加協力を得ての実施で、これまで行きたいと思っていたお店を気軽に訪問し、そのお店の魅力を知ってもらう、という企画です。このイベントを通して、少しでも多くの方が麻生のまちの、いろいろなお店に関心を持っていただけるとすれば、麻生はこれまで以上に賑わうのではないかと思います。これからも、さらに多くのお店の参加により、街区を訪れる皆さんに喜んでもらえるよう、取り組んでいきます。

平成26年7月から、4回にわたって「おすそわけマーケット」を実施しました。

その前年、「サッポロ フューチャーセッション」というイベントが札幌市主催で開催されました。イベントの趣旨は札幌の商店街の新しい役割や可能性を考えていこうというもので、「麻生おすそわけマーケット」はその中から生まれたアイデアでした。

麻生は札幌でも有数の商業集積エリアであるとともに石狩、当別方面と札幌中心部とを結ぶ交通の要衝で、地下鉄の最終駅、バスターミナル、JR新琴似駅が集中し、多くの通勤通学客が麻生を経由していきます。

つまりは、麻生商店街は、麻生地区のみならずこれらの地域の皆さんにとっても重要な商店街となっています。いわば地域を超えた交流の場となっている「おすそ

わけマーケット」は麻生商店街にとっても非常に重要なことだと思います。

さて、ちょっと変わった取り組みとして、商店街区にあるお寺を会場として落語を聞いていただきました。

題して「おてらくご」です。

麻生地区も少子高齢化が進んでいるとの事ですが、商店街にとってもこの問題は非常に大きな課題です。

麻生は人通りが多いといっても大半は通勤通学客です。街として楽しむ場所、発見する場所、学ぶ場所、安らぐ場所であったらいいな、と思います。そのためには、何が必要か、どうすればよいのかを考えていきたいと思っています。



さて、この「おてらくご」ですが、平成26年11月に実施しました。生の落語を聞くチャンスは、そうそうあるものではありません。きっと皆さんに喜んでいただけていると思っての実施です。参加者は200人以上、さまざまな年齢層の方に来ていただくことができました。

麻生商店街は、地域との連携を強めながら、その特徴と魅力をアピールしていかなければならないと思います。他方で、地域を超えて様々な方面との繋がりや役割を担わなければならないと思います。

あさぶという地区を知ってもらうこと、麻生の色々なお店の魅力を知ってもらうこと、近隣近郊の皆さんと交流を深めていくこと、安心安全なまちづくりや賑わいと活気のある商店街の創造が求められていると思います。



○お問い合わせ

麻生商店街振興組合

TEL.011-707-9923

# 屯田西公園の取り組み2014年度

みどりみらいプロジェクトグループ 屯田西公園管理事務所 所長 ほらない なきひと 洞内 無人

私たち「みどりみらいプロジェクトグループ」(以下「当グループ」)は、指定管理者として平成18年から屯田西公園・太平公園・新琴似グリーン公園の維持運営管理を札幌市より委託されてきました。平成26年度現在で三期9年目になります。屯田西公園における取り組みの一例をご紹介します。

当グループでは「利用者サービスの向上」を目指し「地域住民との協働・地域ボランティア団体との連携」「イベントの充実」に努めています。

このうちドッグランの開催は、公園利用者からの要望が寄せられ、平成24年7月15日から実施しています。平成26年度は5月11日～10月31日までの期間で行われ、設置から管理そして利用者へのアドバイスをボランティアの皆さんとの協働で行っております。



ドッグランの時間帯は8:00～17:00(10月は16:00まで)で実施しました。平成26年度は7,560頭(43頭/日)の利用がありました。今期間中もプロのドッグトレーナーに依頼して「犬のしつけ教室」を開催したところ多くの方に参加していただきました。公園での飼い主と犬のマナー・モラルアップ、さらに「人と犬がともに楽しめる公園」を目指し、札幌市におけるドッグランモデルとしての役割を担って行けるようボランティアの皆さんは張り切っています。

9月27日(土)には、ボランティアの皆さんが主体となって「ごみゼロプロジェクト」を実施しました。掲示板で参加者を募ったところワンちゃんを飼っていない公園利用者の方も加わって公園のごみを拾いました。

公園内に設置していますアンケートボックス等で公園利用者からは「ドッグランが出来てから雪解け時公園内の糞が少なくなった」との声も聞かれる様になりました。



今後も公園を利用する者同士「きれいな公園作り」を目指して積極的に活動を展開していきます。

課題としてはドッグラン解放を、管理者の常駐時に限っているため解放日時が限られている事が挙げられます。

園路や花壇を花でいっぱいにする「花いっぱい運動」も地元パークゴルフ協会と協働で活動し今年で9年目となりました。

「公園を散歩していてきれいな花を見ると心が和みます」とのご意見を頂き維持管理にも力が入ります。また6月にチュウリップの花が終わる頃野球場外周100mに屯田西小学校3年生による総合学習事業として、子供達の思い思いの花を植えてもらい公園に親しんでもらう活動を行っております。花植え・水やりを通して「いきもの」に接する心を育み公園に親しみをもって頂けたら嬉しい

です。また父兄の方からもお子様の植えられた花壇を見に来られ「楽しませて頂いております」などの声も頂戴しております。



今年新たな取り組みとして「森の音楽会」を6月と9月に実施いたしました。1回目は近郊で活動しているバンドの他「屯田西小学校ブラスバンド」による演奏が披露され、近隣住民や公園利用者が次々と訪れ200人以上の聴衆がミニコンサートを楽しまました。この日は2部構成で一部は公園内温水プールを特設会場に、市内近郊で活動する10組のバンドがジャズやクラシック・ポップスなどを披露しました。ブラスバンドの中に「私、公園の花植えに来たんだよ」と言う子どもさんもいて、公園が地域で果たす役割が見えて来た様に見える。



今年初めて取り組んだ冬のイベントでの「陶器キャンドル作り」は11月29日・30日の2日間近隣住民を対象として行われました。2日間合せて約30人がクリスマスキャンドルや部屋に飾るランタンづくりに取り組みました。それぞれがろくろの上に円錐形や球形などに整形された粘土を置き好きな形の穴を開けたり模様を付けたりしながら個性的な作品を造形。工房で乾燥・色付け後窯で焼いて仕上げです。



1月に行われた「スノーキャンドル作り・宝探しゲーム」は20人の募集予定だったところ、30人以上の申し込みがありました。雪の中に隠された宝物を探す「雪中宝探し」は真っ白な雪の中、宝を探し当てた子供たちの歓声で賑っていました。午後4時子どもたちの歓声の中キャンドルの点灯式が行われました。

今後も冬の公園での遊び方を模索しサービスを提供して行きます。



○お問い合わせ

屯田西公園管理事務所（冬期間は閉鎖します）  
TEL.011-771-0219

# 北区高齢者教室「北親大学」

北区市民部地域振興課

### 【「北親大学」ってどんなところ】

北区高齢者教室「北親大学」は人生経験豊かな方々が、学習や仲間作りを通じ、その年齢に相応しい社会的能力を養い、積極的な生きがいのある生活を送ることを目的として、昭和49年から始まり、平成26年で41年目を迎えました。

「北親大学」という名前には「北区の“親”的存在で地域のリーダーとしての自覚を持つ」ことや、「北区の同世代で親睦を深める」という意味が込められており、のべ1,500人を超える区民の方々が北親大学を修了されています。

北親大学を修了された方々は豊かな知識と経験を十分に発揮し、老人クラブや町内会活動など地域社会に積極的に参加し、活躍されています。

また、仲間をつくり親睦を深めるという点では、修了された皆さんが北親大学OB会を結成し、パークゴルフ大会や施設見学会など毎年活発な活動を展開しています。



平成26年度開講式の様子

### 【講義内容】

北親大学は4～5か月間、北区民センターを中心とした会場で、様々な内容の講義を行っています。平成26年度を例にとれば、40名の受講生が5月の開講式から9月の閉講式まで毎週1回ずつ、計19回の講義に参加しました。

ここで、平成26年度北親大学の講義内容を一部ご紹介します。

### 《一般教養》

「法律のはなし」

「市民防災センター見学」



授業風景「市民防災センター見学」

### 《健康管理》

「歯の健康」

「からだにやさしい3B体操」(軽体操)



授業風景「からだにやさしい3B体操」

### 《文化》

「川柳を作ってみよう」

「北区歴史と文化の八十八選をめぐる」

(次のページで講座の様子を紹介します)

他にも、「植物の育て方増やし方」「図書館の上手な使い方」など普段生活する中で、知っているようで詳しく分からない事なども学習しています。受講生が興味を持つように、講義を担当する講師の方々も熱心に、そして楽しく授業を進めています。



### 【北区歴史と文化の八十八選をめぐる】

8月28日(木)、第17回目の授業として「北区歴史と文化の八十八選をめぐる」を行いました。

「北区歴史と文化の八十八選」とは、北区に数多く残る歴史的建造物などから選定した88カ所の名所の中で、北区がガイドマップなどでPRを行っています。

今回の授業では、札幌駅に近く、北海道大学周辺を中心とした「文学と学問の道(鉄西・幌北コース)」を巡るプログラムを組み、31名の受講生の方々と一緒に各所を回りました。

以下、当日の様子を簡単ではありますが、紹介させていただきます。

集合場所である札幌駅を出発し、まず日本初の都市公園ともいわれる「偕楽園跡」とその敷地内にあり市指定有形文化財でもある「清華亭」を見学しました。偕楽園に当時サケやマスのふ化場が設けられており、産業センターとしての側面もあったことや、清華亭が一時民間に払い下げられて貸家になっていたというエピソードも紹介しました。

折りしも、ちょうど清華亭では札幌国際芸術祭の展示も行われており、参加者はそれぞれの歴史を踏みしめるとともに、芸術家によって作られた展示物を興味深そうに鑑賞していました。



⑥ ※ 清華亭

明治13年、明治天皇北海道行幸に際して、貴賓接待所として偕楽園内に建設された建物。一時民間に払い下げられ、貸家としても使用された。移築しておらず、現在も建設当時と同じ場所に所在している。

次に向かったのは北海道大学です。

北海道大学には多くの歴史的建造物や貴重な資料が残されており、そのものが一つの博物館と言っても過言ではありません。

札幌農学校初代教頭で「Boys, be ambitious」で著名なクラーク氏の胸像や、構内を流れるサクシュコ

トニ川の語源や復活までの歴史、古河講堂建設と足尾銅山鉱毒事件の関わりなどを紹介し、普段見慣れた風景にも、さまざまな由来があることを知っていただけではないかと思います。

特に、新撰組の永倉新八が、晩年同校の学生に剣術の指南をし、剣を振りかざしたはずみで転倒、そのまま動けなくなり馬車で運ばれたという逸話には、その意外さに驚く参加者もいました。



⑫ ※ 古河講堂

左右両側に台形の屋根があり、中央には小塔のあるバランスのとれた木造洋風建築。足尾銅山鉱毒事件で非難を浴びた古河鉱業が、帝国大学創設費として100万円を寄付したことが設立の契機である。

今回歩いたのは同コース内の約2.5km。途中お昼休憩や座学も挟みましたが、暑いなかメモを取りながら、各コースを回るのは結構大変だったのではないかと思います。参加者の皆さんの熱心さと健脚ぶりにはこちらが驚かされるほどでした。

北親大学の授業の一つとして実施した「北区歴史と文化の八十八選をめぐる」ですが、参加者からは「長く札幌に住んでいるけれど、初めて知ることもしろあつた」「他のコースもまわってみたい」という声を多くいただきました。八十八選を知ることで、地域を改めて見つめ直し、新たな魅力を発見する一つのきっかけになってくれればと思います。

※数字は八十八選の通し番号です。

### 【おさそい】

北親大学では、ここでは紹介しきれなかったいろいろなテーマの講座があります。もっとくわしく「北親大学」について知りたい、ぜひ受講してみたいなど、興味がある方はお気軽にお問い合わせください。

○お問い合わせ

北区市民部地域振興課地域活動担当係  
TEL.011-757-2407

# 我らが母校

北海道札幌拓北高等学校

拓北高校は昭和 63 年に道立の普通科高校として誕生し、これまで約 8,317 人の卒業生を送り出してきました。開校当初は住宅もまだ少なく、職員室からあいの里公園駅が見渡せたということです。

徐々に住宅も増え、最も多い時期で生徒数は 1,287 名を数えましたが、再編統合により平成 27 年 3 月をもって閉校することとなりました。取材をした平成 26 年 12 月の時点では 3 年生 269 名のみが在籍し、広々としたキャンパスは少し寂しさをたたえていました。

同校の在學生に学校の印象を聞くと、「自然環境に恵まれている」「落ち着いて勉強が出来る」「身内だけでなく地域の人ともつながりがある」など、この学校、そして地域に心から愛着を持っていることが感じられました。

同校は地域に信頼される学校を目指してこれまで様々な活動をしてきました。本稿ではその活動の一端をご紹介します。本稿ではその活動の一端をご紹介します。

(本稿は地域振興課が、H26.12 に取材・編集したものです)



### 【生徒会執行部の取り組み】

生徒会執行部は現在 3 年生 14 名で活動しています。生徒会は同校で開催される生徒総会やイベントの運営を行っていますが、平成 26 年度は学年が一つしかないため、どのイベントも昨年度の焼き直しでは対応することが出来ず、ゼロベースで企画を考えるとところから始まります。顧問の先生か

らは「仕事の量は例年の 2 倍」とのこと。とても忙しい毎日を送っています。

そんな執行部の皆さんが、これまでに行ってきた活動の中で最も思い出に残っているのは、同校の一大イベント「拓高祭」。拓高祭は 7 月に開催される同校の学校祭で、金曜と土曜の 2 日間にわたって行われます。

イベントの企画は執行部が中心となって 4 月から計画を立て始め、仕事の割り振りや各担当との打合せなどを重ね、当日に臨みました。今年度が最後ということもあり、当日は同イベントを惜しむ地域住民と保護者約 800 名が会場に集まり、生徒とともに会場を盛り上げました。また、SNS で呼びかけて集まった OB・OG が食堂を運営したり、PTA が焼鳥の販売をするなどして同イベントに花を添えました。まさに地域と学校が一体となったイベントは大盛況のうちに幕を閉じました。



取材に答えてくれた執行部の部員→

この他、生徒会では多くのイベントの企画や運営を行っており、取材に訪れた 12 月も閉校記念式典の準備の真っ最中。1 年を通して忙しく活動する代表に感想を聞いたところ「生徒の中心となってイベントを運営するのは本当に大変でした。でも、今ではそれが自分の糧となり心の支えとなっています」との言葉をいただきました。

## 【ボランティア局の取り組み】

同校にボランティア局が出来たのは今から10年ほど前のことです。もともとは自主的にボランティア活動を行っていた弓道部などの有志が、「もっと積極的に活動したい」と、学校側に働きかけて出来たという経緯があります。現在は在籍する8名のうち、女子生徒が7名という男女比ですが、「力作が多くて大変じゃない」との質問には「力の強い女子が多いので」とのこと。「拓北魂」を感じずにはられません。

さて、さまざまなボランティア活動を行っている同局ですが、特筆すべきものは、あいの里児童会館で行われている「ちょボラ活動」（ちょこっとボランティアの略）への参加です。この活動は、児童会館のボランティアと一緒に使用済みの割り箸を回収し、再生工場に送りティッシュの材料とするもので、児童との交流を深めるとともに資源のリサイクルにもつながる取り組みとなっています。児童会館との連携は、あいい祭りでの児童会館ブースの運営協力にもつながっており、地域の一員として各方面で活躍するきっかけとなっています。



↑あいい祭りの様子

取材に答えてくれたボランティア局員→

この他にもユネスコの「世界寺子屋運動」を支援する街頭募金や地域のゴミ拾い・除雪など数多くの活動に参加してきた局員からは、「住民の方より密に過ごすことができ、地域への愛着を深めることが出来ました」「地域の方から『今年もありがとう』と声をかけていただき、感謝されることの嬉しさを知りました」との感想をいただきました。

## 【藍染部の活動】

同校1階の廊下を奥に進んでいくと、天井から藍染の作品が顔を覗かせます。染液の独特のにおいが鼻を付くこの先に、藍染部の部室「藍染室」があります。

全国でも珍しい「藍染部」は同校開校にあたり、当時の校長先生の「あいの里」という地名に因んだ特色ある学校にしたい」との思いから生まれた部活です。部員数がたった1名になった時期もあったそうですが、先生たちのフォローや生徒の熱心な活動により、今日まで伝統の灯を絶やさずに続いています。

活動内容はいたってシンプルで、主にハンカチを染めること。しかしながら、江戸時代から伝わる製法で藍染を行う同部では、液を染められる状態にする「藍立て」も生徒が自らの手で行います。これがとても大変で、熱さや匂いと戦いながらの作業となります。苦勞して作った液で作品を染める瞬間は、感慨深い違いありません。また、輪ゴムや糸で付けた模様は自分でも予想外のものとなり、また一つとない作品を生み出すことが出来ることも魅力の一つのことでした。



藍染部の活動（染色の様子）

この他、PTA研修会の一環である藍染体験会では、生徒が講師役を務め、毎年好評を博しています。ALT（外国語指導助手）が参加したこともあり、英語での説明に苦勞しながらも藍染を楽しんでもらうことが出来たということです。

部員の方にお話を聞くと、もともとはそれほど藍染に興味がある人ばかりではなかったそうです。しかし、部活動を通して「地域の伝統を知ることができ、あいの里を知るきっかけになった」「仲間とともにものを作る楽しさを知ることが出来た」と充実した笑顔で答えてもらうことが出来ました。

## 4. 連携・連帯でつくるまちづくり



取材に答えてくれた藍染部の皆さん。自分の作品とともに。

### 【理科学研究部の活動】

トンネウス沼に代表される豊かな自然に恵まれた環境を生かし、輝かしい成績を収めてきたのが同校の理科学研究部です。開校2年目に同好会として発足した同部は、部に昇格後、研究発表大会などで数多くの表彰を受けるとともに、地域の方々をはじめ多くの人に研究成果を知らせる活動を行ってきました。地域のNPO法人「カラカネイトトンボを守る会」の活動にも参加し、トンネウス沼の環境保全やカワセミの営巣場所の整備、ビオトープの草刈りなどに協力してきました。

そんな同部が最近力を入れているのが、かつてあいの里地域に多く生息していたホタルの定着活動です。現在も成虫が見られる南あいの里に成虫を数えに行き、その環境を調査、あいの里公園の「ホタル池」に似た環境を作り出し定着を図るというものです。

その活動の一環として行われ、地域に大変親しまれてきたのが6月の「放流会」と7月の「光観察会」です。放流会は、同部が1年間飼育したホタルの幼虫をあいの里東小学校の生徒とともに放流するもので、光観察会はそのホタルの光を実際に見に行くものです。いずれも地域行事として根付いており、観察会には約180人ほどの参加者が訪れたとのこと。

このように、同部では、校舎内での研究のみならず、多くの地域住民との交流も行っています。



放流会



光観察会（理科学研究部による説明）

顧問の先生が「ホタルの先生」として地域の子どもたちに親しまれていることもその一つの証拠でしょう。

同部の部員の方も、自然に詳しくなったことはもちろん「人と多く接することで自分に自信が持てた」ことを所属した感想として挙げてくれました。また、「高校で培った経験を生かして、将来は生物の特性を活かしたものづくりの仕事につきたい！」との夢も語ってくれました。



取材に答えてくれた理科学研究部の皆さん。

## コラム⑥ ウォームシェア事業

札幌市では、積極的な省エネや節電の取り組みを進めており、その一環として「ウォームシェア」を推進しています。

「ウォームシェア」とは、一人ひとりが家庭での暖房や照明を切って外出し、街や公共空間に集まったり、イベントに参加したりすることで、エネルギーの節約や地域の活性化、人と人の絆づくりに資するという、冬の新たなライフスタイルです。

北区でも冬季、まちづくりセンターや地区センターなどを会場として、ミニコンサートや各種講座、映画の上映会などさまざまなイベントを行っており、地域住民ら多くの参加者が暖まりながら交流を深めています。

以下、これまでに行ってきたイベントの様子を簡単に紹介いたします。

いいね!  
一緒にあったかライフ

ウォーム  
シェア



▲アカペラ体験会（篠路児童会館）  
子どもを対象としたアカペラのコンサート＆ミニ体験会です。講師は北海道教育大学のアカペラサークルが務めました。



▲ハーブ講習会（鉄西地区会館）  
温かいハーブティーを飲みながら、ハーブの効能や利用法を学ぶ講座です。



▲映画上映会（麻生児童会館）  
札幌国際短編映画祭PRの一環として、子ども向けの作品を上映しました。



▲マンドリンコンサート  
（三和福祉会館）  
北海道大学マンドリンサークルによるミニコンサートです。演奏終了後は出演者と参加者が交流を深めました。



▲将棋教室（屯田地区センター）  
日本将棋連盟などの協力を受け、子どもを対象とした初心者向け将棋教室を行いました。



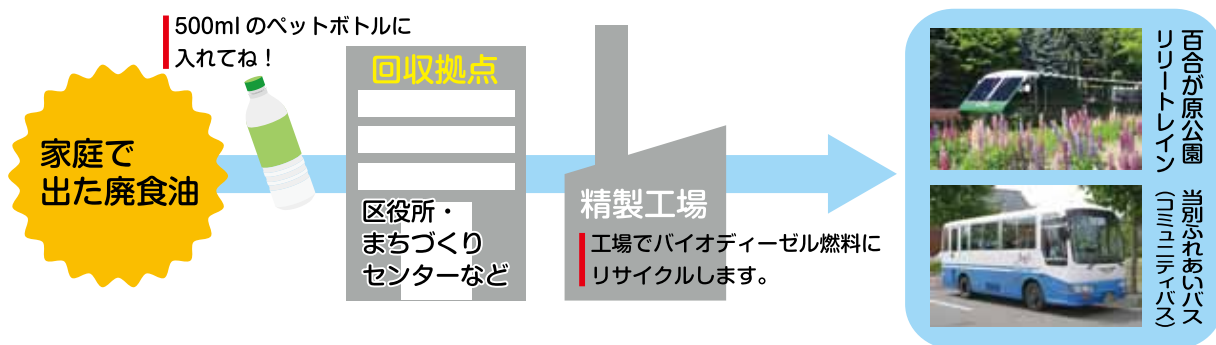
▲ミモザコンサート（百合が原公園）  
ミモザ咲き誇る同公園の大温室で、ピアノ演奏や沖縄音楽、アカペラなどのコンサートを開催しました。

【お問い合わせ】 北区市民部地域振興課まちづくり調整担当係 757-2407

## コラム⑦ 廃食油のリサイクル

札幌市では、ご家庭の使用済み食用油（廃食油）を回収し、バイオディーゼル燃料にリサイクルする事業を行っています。

北区でも市有施設を中心として回収を進めており、札幌市のごみ収集車や百合が原公園リリートレインの燃料として活用されています。特に北区役所の回収ボックスで集めた分は、当別町のコミュニティバス「当別ふれあいバス」の燃料として提供し、同町からお返しとして北区・当別町双方にゆかりのある亜麻の種をいただいています。いただいた種は、種から育てる花苗事業などで区民に還元しています。



### ■どんな油を回収しているの？

#### ○ 回収できる油

ご家庭での使用済み、または賞味期限切れの食用油（サラダ油、なたね油、コーン油、ごま油、べに花油、ひまわり油、オリーブ油など）を回収します。使用済みの食用油はよく冷まして、天かすなどの不純物を紙でこすなどして500mlのペットボトルに詰めてください。

#### × 回収できない油

動物性の油脂（ラード、バターなど）を含むもの、鉱物油は回収できません。また、事業者から出た廃食油も回収できませんのでご了承ください。

### ■どんなところで回収しているの？

北区役所や区内の各まちづくりセンターのほか、消防署及びその出張所などで回収しています。（消防署の出張所は、出庫時・出勤時は回収していません）また、区内のスーパーで回収しているところもあります。

詳しくは下記のホームページから検索することが出来ます。

ごみの減量、地球環境の保護につながるこの取り組みにぜひご協力ください！

<http://www.city.sapporo.jp/seiso/GOMI/bdf/index.html>

検索

【お問い合わせ】 北区市民部地域振興課まちづくり調整担当係 757-2407